

海老名市 フルインクルーシブ教育

推進ビジョンと 5年間の取組計画

5年間の取組計画は、海老名市がフルインクルーシブ教育を進めるにあたり、「海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学べる環境の実現」に向けた計画です。

毎年見直しを図りながら、進めていきます。

海老名市教育委員会

令和7年3月

<推進ビジョン>

【目的】

海老名市のすべてのこどもが、小学校、中学校でともに学べる環境の実現

【めざす姿】

- ◇ 学級がすべてのこどものホームとなり、様々な学び方が保障され、協働的な学びが行われるなど、ひとりひとりのこどもに応じた、多様な学びが実践されている。
- ◇ 学校の包摂性が高まり、地域のすべてのこどもが、地域の学校であたり前に、安心して学ぶことができる環境が整っている。

【推進の柱として】

A みんなでめざす

- 対話や研修を重ね、インクルージョンの考え方について理解を深める。

B みんなで支える

- 個別の支援計画（えびなっこ支援シート）・教育支援コーディネーターの専任化・多様な人的支援などにより、校内支援体制の充実を図る。

C みんなで見直す

- 各学校がフルインクルーシブな視点により、学校づくりを進めるとともに、教育委員会として学級規模や学籍などの制度の見直しを図る。

D みんなで整える

- 学校施設や教室環境の改善を図る。

推進の柱	No	項目	令和6年度取組	令和7年度以降取組予定	令和10年度の姿
A みんなでめざす ○インクルージョンへの理解・啓発を促進しインクルーシブ・シティとしての海老名市をめざします。 ○教職員・保護者・市民の研修を充実させます。 ○インクルージョンについて市民とともに考える場を設置します。 ○多くの方に取組を積極的に発信します。	①	対話の場の開催	市民、教職員、障がい者団体、不登校支援団体との対話の場の実施	こども、保護者も含めた対話の場の継続	○対話の場や研修会の継続により、海老名市のこどもに係るすべての人のインクルージョンの理解が深まっています。 ○市民会議が定期的に開催され、市全体としての取組が図られています。 ○シンポジウムの開催などにより、取組や成果を広く発信しています。
	②	研修会の開催	教職員研修会、市民学習会の実施 今後の研修会のあり方についての検討	教職員研修会、市民学習会の継続・充実	
	③	シンポジウムの開催	開催規模、スケジュール等の検討	県内・全国シンポジウムの実施	
	④	市民会議の設置	会議設置に向けた計画の検討	市民との議論をさらに進めるために市民会議を設置	
	⑤	ホームページ開設とSNSでの発信	広報に係るホームページ開設等の検討	ホームページを開設し、対話の場や研修会の様子等を広く発信	
B みんなで支える ○個別の支援計画をもとに、校内支援体制の充実を図っていきます。 ○校内の様々なリソース（資源）を充実させひとりひとりの学びを保障します。 ○こどもたちの支援のあり方について、研究していきます。 ○保護者や地域の方々、支援学校や関係機関と連携して、こどもたちを支えていきます。	⑥	教育支援コーディネーター（※1）を中心とした校内支援体制の充実（学校）	校内支援体制モデルの検討	校内支援体制モデルによる体制の整備とコーディネーター研修の充実	○校内支援体制と様々なリソースの充実により、学級をホームとした教育活動が進められています。 ○教育支援委員会では、こどもたちにとってよりよい支援のあり方についての協議が行われています。 ○保護者や地域の方々、特別支援学校や関係機関との連携による教育活動が進められています。
	⑦	学級をホームにする研究（学校）	学級をホームにしていくための協議、検討	各学校での試行と取組の充実のための情報共有	
	⑧	個別の支援計画 「えびなっこ支援シート」の運用	作成の実施、検証	個別の支援計画による支援の実施	
	⑨	スペシャルサポートルームと心の教室（※2）の活用推進	研究委託の検証	教室環境や支援体制の充実による活用の推進	
	⑩	就学相談のあり方	就学相談・教育支援委員会のあり方、時期の検討	ひとりひとりのこどもに応じた支援について話し合う就学相談・教育支援委員会のあり方の検討	
	⑪	特別支援学校との連携	センター的機能の活用、特別支援学校との連携についての検討	特別支援学校との連携の充実と居住地交流の拡大に向けた検討	
	⑫	支援ボランティアの配置	現行体制の見直しと新たな支援体制の検討	支援ボランティアの配置と研修の実施	
	⑬	関係機関・民間事業者との連携	対話の場において、フルインクルーシブ教育についての意見交換を実施	関係機関・民間事業者との連携強化	
C みんなで見直す ○フルインクルーシブな視点による学校づくりを進めるとともに、授業や学習評価のあり方についても見直しを図ります。 ○学級をホームにするために、学級規模や学籍などの制度の見直しを図ります。	⑭	学校教育活動での取組	各学校における包摂的な学校づくりの実践	各学校における取組の継続と教育委員会としての支援の強化	○フルインクルーシブな視点による学校づくりが進み、授業や学習評価のあり方についての研究が進んでいます。 ○学級をホームにするために、学級規模や学籍などの制度の見直しに取り組んでいます。
	⑮	学級をホームにする研究（制度）	学籍のあり方についての協議	学級をホームにするための制度見直しについての協議	
	⑯	授業・学習評価のあり方	授業や学習評価のあり方についての協議	フルインクルーシブな視点による授業と学習評価のあり方についての研究	
	⑰	教育支援コーディネーターの専任化	教育支援コーディネーターの役割と専任化についての協議	教育支援コーディネーターの専任化を進め、その活用についての研究	
	⑱	学級規模と人的配置の工夫改善	現状の課題についての協議・検討	制度の見直しと人的配置の工夫改善についての研究・実施	
D みんなで整える ○すべてのこどもが地域の学校で学べる生活・学習環境を整えます。	⑲	教室の環境整備	だれもが学びやすい教室環境についての協議	だれもが学びやすい教室の実現のための計画的な環境整備	○校内のリソースの充実に向けた、環境整備が進められています。 ○学校施設のバリアフリー化に向けて、計画的に整備が進められています。
	⑳	学校の施設整備	学校のバリアフリー化に向けた検討	学校のバリアフリー化に向けた計画的な学校施設整備の実施	
	㉑	通学・移動等の学校生活支援	通学・移動等の支援についての課題の検討	通学・移動等の学校生活支援に係る支援制度の検討・実施	

（※1）教育支援コーディネーターとは、すべてのこどもが学級をホームとしてともに学ぶことができるよう、教育環境や支援のあり方などをコーディネートしていく役割をもつ。
（※2）スペシャルサポートルーム（小学校）とは、不登校状態であったり、集団生活が苦手であったりすることや、クールダウンが必要な場合において、教室に行くことができない児童が教室以外で安心して過ごせる居場所である。また、同様に心の教室（中学校）とは、不登校状態であったり、集団が苦手であったりする等を理由に教室に行くことができない生徒が利用する居場所である。